

# 地域企業と連携した企業課題への取り組み

～持続可能な商店街を目指して～

## 国際商経学部

○准教授 はま だ ひろし 濱田 洋 (プロジェクトゼミ企業課題グループ代表)

### キーワード

PBL、課題解決型学習、企業連携、地域企業の理解、キャリア教育、商店街の活性化



### 研究概要

国際商経学部では、伝統的に1年生から4年生まで少人数のゼミに所属することになっており、1年生後期から2年生前期にかけては実社会や企業の課題解決を探索する「プロジェクトゼミ」を開講しています。当該ゼミでは経済学や経営学の理論習得を基礎に、問題や課題を分析し、解決策を見いだすべく、3～5名程度のグループで共同作業を行いながら、共同での作業方法、課題分析、論理的に解決策を提案する方法、地域企業の理解など、学生自身のキャリア開発に関わる社会に出てから不可欠な基礎力を養うことを目的としており、地域企業や関係団体等、外部の方々のご協力を得て、ゼミ運営が行われています。

本年7月に終了したプロジェクトゼミでは、(株)オイス様、カネテツデリカフーズ(株)様、三宮本通商店街(センターサウス通、ミチニワ)様と連携し、SDGsへの対応、若年層への浸透、コロナ禍を受けた商店街における活性化等の課題に75名の学生が10ヶ月間、取り組みました。

この中で商店街チームでは、現地調査、アプリ開発者(川崎重工業(株)様)へのヒアリング、他のプロジェクトゼミ参加企業とも連携した空き店舗を活用したイベント(「商×大ウィーク」)の実施、アンケート分析等を通じて、アプリの知名度向上策、空き店舗を活用したアンテナショップ、SNSの継続活用による商店街魅力の発信、地域特産品と地域ショップのコラボ、昆虫食の活用など学生自身が長期間検討した多様な提案がなされ、学生のプレゼンと企業の方々からのフィードバックが行われています。

プロジェクト参加企業と連携した商店街イベントの様相(学生企画による県産品を利用した商品開発、昆虫クッキー試食、アプリの利用促進策等)

<https://u-hyogo-webmag.com/archives/article/20230623sannomiya>



### アピールポイント

国際商経学部の学生として、単に講義科目から理論を学ぶのみならず、理論と実践のバランスを意識したゼミとして運営されており、10ヶ月の期間を活用した多様な活動(イベントの企画やSNSの活用などの実践的活動等)をもとに、アンケートやヒアリングを通じて、地域企業への理解やSNS利用の困難さを反映したかたちで持続可能な商店街へむけて、学生を介した地域企業の連携、特産品の企画や話題性ある素材の活用、ICT環境と融合を図ることで、神戸市三宮の都市型商店街という環境における現代的なリアル店舗の活用につながる提案となっているものと考えられます。

